

こども・若者への年金広報・教育と意見交換について

「学研まんがひみつ文庫 特別編 年金のひみつ」について

こども達が、公的年金制度を楽しく学ぶための年金教育教材を制作し、電子書籍として厚生労働省ホームページから閲覧できるようにするとともに、全国の小中学校及び公立図書館に配本している。

概要

配信日:2022年7月

配本数:小学校 19,569校
中学校 10,312校
特別支援学級 1,166校
公立図書館 3,297カ所

【ストーリー】

みんなは「年金」って、どんなものか知っている？小学5年生のショウタたちは、職場見学をきっかけに「年金」のことを、知ることになったよ。さまざまな人との出会いで、ショウタたちは「年金」が社会を支える大事な仕組みだと気づいたんだ。みんなも、ショウタたちといっしょに「年金」にふれてみよう！



ソーシャルメディアを活用した周知広報について

2021年より、著名なインフルエンサーとのコラボ動画を制作し、YouTubeを活用した広報を実施。これまで公開を行った3作品は計215万回(2024年2月現在)視聴されており、年金財政に関する基礎的な考え方、受給資格や受給額の計算方法、障害年金、遺族年金を含めた公的年金制度の意義などを解説している。現在、4作品目となる、働き方・暮らし方の変化に伴う公的年金・私的年金の将来受給年金額の違いに関する解説動画を制作している。



2021年3月

『年金について日本一わかりやすく説明しようと思ったらこうなった』

公開日:2021年3月24日
視聴回数:95万回
高評価:2.6万回(高評価率 98.9%)



2022年3月

『東大生が年金について考えてみた【QuizKnock塾】』

公開日:2022年3月31日
視聴回数:61万回
高評価:1.3万回(高評価率 98.4%)



2023年3月

【助けてQuizKnock】悪魔スガイが乱入してきて年金講座が進まない

公開日:2023年3月31日
視聴回数:59万回
高評価:1.1万回(高評価率 98.0%)

こども霞ヶ関見学デーへの活動参加について

「こども霞ヶ関見学デー」は、霞ヶ関に所在する文部科学省をはじめ、各府省庁等が連携し、所管の業務説明や関連業務の展示等を行うことにより、夏休み期間中に子供たちに広く社会を知ってもらうこと、政府の施策に対する理解を深めてもらうこと、活動参加を通じて親子の触れ合いを深めてもらうことを目的とした取組であり、多くの子供たちと年金について楽しく学ぶイベントを開催。(コロナ禍では中止)

令和4年度の取り組み

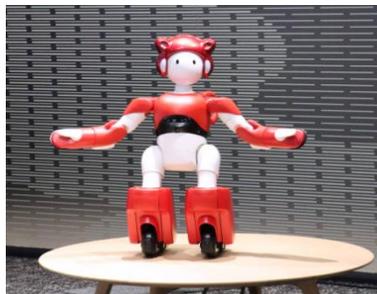
■ 概要

日時:8月4日(水)14:00~15:00

ゲスト:小島よしお氏
日立のコミュニケーションロボット・EMIEW(エミュー)

対象:3歳以上の未就学児、小学生、中学生、および保護者

参加数: オンライン・約84件



令和5年度の取り組み

■ 概要

日時:8月2日(水)10:30~12:00

ゲスト:伊沢拓司氏(QuizKnock)

対象:3歳以上の未就学児、小学生、中学生、および保護者

参加数:対面・保護者を含めて約100名、オンライン・約40名



【参考】日本年金機構における取組について

【年金セミナー】



大学生・高校生等に年金制度の意義や仕組みについて理解を深めていただくための「年金セミナー」を、各学校のニーズやご要望に応じてオンライン、対面、動画提供により実施

実施回数：3,488回（令和4年度）

参加者数：162,894人（令和4年度）



【年金セミナー用動画(DVD)】



対面やオンラインでの実施が困難な教育機関に対しては、「知っておきたい年金のはなし」「国民年金ってホントに必要なの！講座」のほか、「20歳になったら国民年金」、厚生労働省が作成した「年金クイズ」動画を収録したDVDを配布。また、これらの動画は、受講者の興味を惹くよう対面でのセミナーにおける冒頭のアイスブレイク等に活用。



年金セミナーや年金制度説明会の品質の向上を図るため、プレゼンテーションスキルを競い合うコンテストを実施〔令和5年2月〕

大学生向け年金対話集会について（概要）

■ 趣旨

学生と厚生労働省(年金局)職員が年金をテーマに語り合うことを通じて、学生が年金について考えるきっかけにするとともに、学生からの意見や指摘を今後の年金行政に活かす。

■ 概要(一例)

- ・全国各地の大学などで開催(対面/オンライン開催)
 - ・年金局職員が年金制度の説明を行った後、座談会形式で年金をテーマに学生と職員が意見交換
- 第1部(45分程度): 年金局職員から年金制度に関する説明
第2部(45分程度): 数人のグループに分かれ、大学生と年金局職員が座談会方式で意見交換

第1部 導入講義

■ 講義コンセプト: 「わたしの年金、みんなの年金」

【社会保障制度の枠組みにおける公的年金の意義】

- ・年金教育では、誰もが人生を歩んでいく上で避けることのできないリスクに対して、社会全体で連帯して備える保険の考え方を基本に構築されている年金制度の意義や位置付けを理解できる講義を提供。

【個々人にフォーカスした公的年金制度の意義】

- ・働き方の多様化、高齢期の長期化が進む中、老後の所得保障や退職後の生活設計の情報に対する個々人の備えに関する講義も提供

<年金対話集会 導入講義>



第2部 意見交換

■ 意見交換コンセプト:

将来の年金制度を担う若手職員と学生の対話による相互理解の促進

- ・学生の皆様からの年金制度に対する素朴な疑問や将来に対する不安について、年金局において年金制度を実際に企画立案、事業運営を担う若手職員の視点からお答えし、若い世代間での相互理解を促進する

【学生の皆様からのよくある質問の例】

- ・年金の積立金は枯渇しないの？枯渇したらどうなるの？
- ・賦課方式を採用した理由、積立方式との違いは何か？
- ・iDeCoを利用する際のメリット、注意点はどのようなものか？

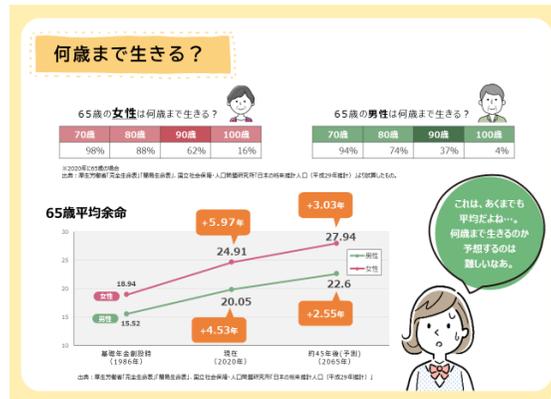
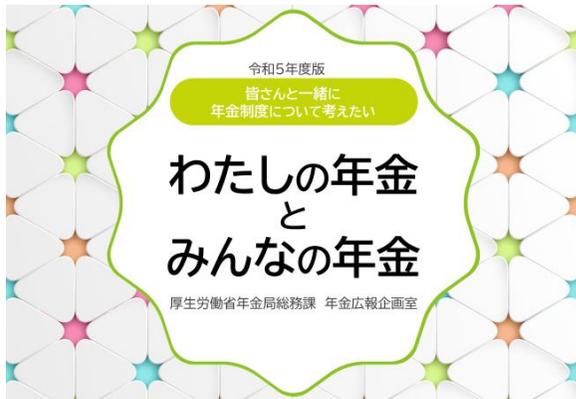
<年金対話集会 意見交換>



大学生向け年金対話集会について（講義資料）

年金対話集会では、学生の年金制度に対する理解が進むよう、年金制度や各種データを視覚的に理解できるようインフォグラフィックスを活用したわかりやすい資料を用いて、講義を行っている。

インフォグラフィックスを活用した年金対話集会講義資料



アンケート結果抜粋

- ・よくある「小さい文字で読みにくい」という行政の資料のイメージからはかけ離れたプレゼン資料で講義を行っていただき、非常に驚きました。
- ・資料も説明も分かりやすく年金制度について正しい知識を学ぶことができました。
- ・スライドも分かりやすかったし、説明も聞き取りやすかった。マクロ経済スライドなどのやや専門的な話も初耳ながら理解できた。
- ・スライドの資料が非常にわかりやすく、またよく質問される事項（年金は本当に必要なのか、等）については私も疑問に思っていたところであったのですが、厚生労働省の方々のお話に説得力があり、非常に納得できました。
- ・年金についてスライドで分かりやすく説明してくださって厚生労働省は自分が考えてる以上に幅広い分野に携わっていることに驚いた。

大学生向け年金対話集会について（開催実績）

開催実績

令和元年度：大学6校、令和2年度：大学9校、令和3年度：大学24校、中学・高校4校、令和4年度：大学23校、中学・高校2校、令和5年度：大学36校
令和5年度は約1,200名の学生が参加。

令和元年度

愛知県立大学
北海道大学公共政策大学院
東北公益文科大学
県立広島大学
帝京大学
大妻女子大学短期大学部

令和2年度

東北大学
帝京大学
熊本大学
福岡大学
愛知県立大学
高崎経済大学
東北公益文科大学
成城大学
横浜国立大学

令和3年度

名古屋大学
一橋大学
お茶の水女子大学
上智大学
北海道大学
東海大学
熊本大学
帝京高等学校
帝京大学
市川市立第二中学校
愛知県立大学
愛知学院大学
立教大学
市川市立塩浜学園後期課程（中学校）
成城大学
盛岡大学
角川ドワンゴ学園
（N高等学校、S高等学校、N中等部）
東北大学
広島県立大学
京都産業大学
早稲田大学
大妻女子大学短期大学部
亜細亜大学
福岡大学
東北公益文科大学
東京大学
埼玉大学
立教大学

令和4年度

関西大学
盛岡大学
東京都立東久留米総合高等学校
一橋大学
お茶の水女子大学
東海大学
北海道大学
北海道大学公共政策大学院
名古屋大学
熊本大学
日本女子大学
帝京大学
角川ドワンゴ学園
（N高等学校、S高等学校、N中等部）
上智大学
東京経済大学
東北大学
亜細亜大学
成城大学
東北公益文科大学
大妻女子大学短期大学部
東北学院大学
東京大学
横浜国立大学
福岡大学
北海道大学公共政策大学院

令和5年度

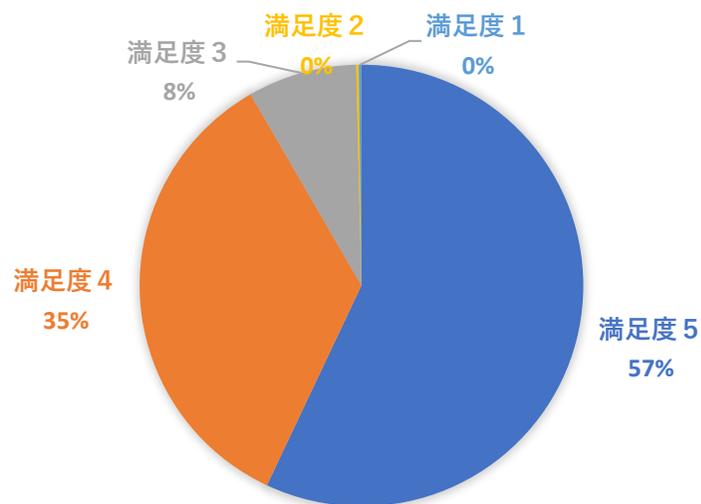
北海道大学
武蔵大学
立教大学
関西学院大学
一橋大学
東海大学
盛岡大学
名古屋大学
お茶の水女子大学
熊本大学
九州大学
相模女子大学
日本女子大学
北海道大学公共政策大学院
北海道教育大学
お茶の水女子大学
帝京大学
名古屋市立大学
南山大学
東北学院大学
早稲田大学
東京大学
東北大学
亜細亜大学
北星学園大学
北海道大学
大妻女子大学短期大学部
慶応義塾大学
神奈川大学
福岡大学
東北公益文科大学
成城大学
東北福祉大学
上智大学
近畿大学
埼玉大学

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果①）

■ 年金対話集会の出席者の満足度及び理解度（令和5年度アンケート結果）

【満足度】

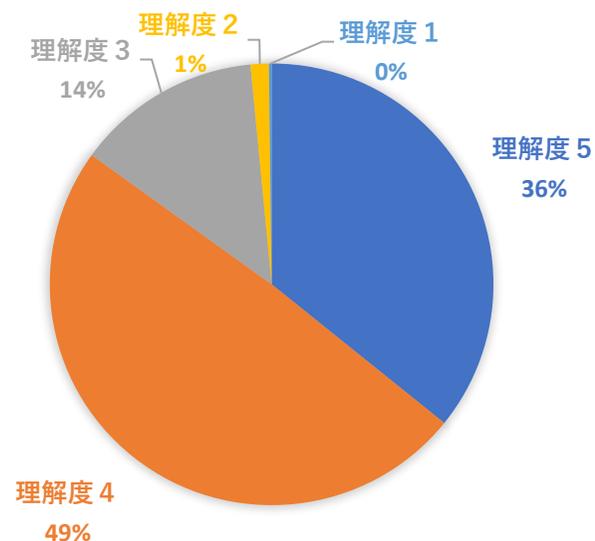
(不満) ←1-2-3-4-5→ (満足)



満足度5	301
満足度4	183
満足度3	42
満足度2	1
満足度1	1

【理解度】

(不十分) ←1-2-3-4-5→ (十分)



理解度5	188
理解度4	258
理解度3	71
理解度2	7
理解度1	1

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果②）

■ 年金対話集会の出席者からの主な意見（令和5年度アンケート結果から抜粋）

【総論】

- 少子高齢化はもちろん、女性の社会進出や働き方の多様化が進んでいるため年金の枠組みも変化するべきだと思います。どのような仕組みが適切なのか（今後数十年も見通して）、難しいとは思いますが検討を重ね何かしら変えていくべきだと思います。今後の改善としてどのような策が検討されているのかに興味を持ちました。
- 学生の私たちには、正直年金の議論となっている点をよく理解していません。どのような学説があるのか、その上でなぜ現状はこの様になっているのかという、もう少し制度の本質的な部分について知りたかった。
- 公的年金に関して、期待感を持っていない人が多いように感じられるのはなぜなのかと疑問に思った。

【年金財政】

- 負担が大きいと感じてしまうことは事実なので、支出を減らすための年金財政の構造の見直しとして、どのような案があるのかを知りたいです。
- アメリカは財政検証をせずに来年から年金30%カットとなり、日本は5年に一回財政検証を作成しているとのことだが、毎年やらなくて不安ではないのか、どのような仕組みで行われているのかについて知りたい。
- 賦課から積立に切り替え（初期は現役世代が国債を購入し高齢世代を支える）資本貯蓄を増やし経済成長をするという議論があり、チリでは実際に切り替えたと思う。この議論を日本に適用するとどんな問題が生じるのか。
- マクロ経済スライドや労働人口動態の変化で十分な財源をまかなえるのか疑問に思った。
- マクロ経済スライドがデフレには弱いという部分において、スライド調整期間の長期化という策があると思いますが、この策の懸念点はあるのか気になりました。

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果③）

■ 年金対話集会の出席者からの主な意見（令和5年度アンケート結果から抜粋）

【年金財政】前頁からの続き

- 年金の破綻に関して、積立金から得られる財源から将来賄われる見込みとあったが、今後社会保障費が増大していく中で、しっかりと財源を確保して分配出来るのか。
- 積立金が底をつかないと試算している根拠がわかりません。積立金の運用益の見積り方なのか、そもそも年金の支給全体を減らすから積立金先細っても比率は下がらないということなのか。
- 長生きすればするほど貰える年金が多くなるため、早く亡くなってしまったら今まで払った分の金額が十分に貰えなくなり損した気分になるため、なにか保証する制度があるのかどうか知りたい。

【女性と年金、第3号被保険者】

- 先週の授業で年金制度にはジェンダーバイアスがかかっていることを習ったので、なぜそのような制度になっているのか、どのような議論を経ているのか聞きたかった。
- 20歳以上の者は国民年金に加入するはずなのに、なぜ専業主婦は年金を支払わなくていいのか、年金をもらう際は旦那さんの支払った年金が二人分になるということを質問した際に聞き、時間がなくてあまり聞けなかったがもっと詳しく話を聞きたかった。
- 第三号被保険者制度や103万円、130万円の壁に関して、共働き世帯や独身男性等の割合も増加する中で、専業主婦やパートタイム労働者といった第三号被保険者の分の保険料を厚生年金制度に加入する第二号被保険者と事業主で拠出しているという制度は不平等感がある点でやはり変わっていく必要があるのではないかと思います。しかし、制度変更の際にこれまでではもらえたものがもらえなくなったといった不満や、既得権益層による強い反対があることが想像に難しくなく、経路依存性をどのように解消していくかという点が今後様々な場面で課題になると思いました。

大学生向け年金対話集会について（アンケート結果④）

■ 年金対話集会の出席者からの主な意見（令和5年度アンケート結果から抜粋）

【私的年金】

- 国家としてiDeCoを作った経緯や対象者や目的などについて知りたかった。iDeCoは既にお金に余裕があり、制度や資産についてある程度知識があるか、学べる機会のある人が利用することが多いのではないかと考えた。そうだった場合、iDeCoによって貧困層が減るとは考えにくいのではないかと疑問に思った。そもそもiDeCoは生活を支えるものではなく、既に退職後の生活費を確保できている人が更に豊かな生活を送るためのものなのだろうか。
- 近年、積立NISAやiDeCoなどの周知に力を入れているように感じられ、やはり老後の資金準備を今までよりも個人主導で進めてほしいという思いが行政側にあるのかどうか気になりました。

【学生の保険料納付】

- 学生納付特例制度について、大学生や専門学生はこの制度を使用して利子がつく前に払っているのか・利子はあるが10年間の間に払っているのか・そもそも追納しないのか・学生納付特例制度を使用せず親が年金を支払っているのかについてその割合やメリット、デメリットを詳しく聞きたかった。
- 国民年金は20歳から納めることが可能だが、学生が収入を得るとしたら主にアルバイトで1ヶ月に16520円を納めるのは大変な人もいていて学生で国民年金を納めている人の割合はどれくらいなのかを知りたい。また、学生のうちに国民年金を納めていて良かったことや辛かったことを知りたかった。

こども・若者からの意見聴取に関する令和6年度の取組について

1. 大学生向け年金対話集会の機能強化

⇒令和元年度から取組を行っている年金対話集会を活用した意見交換を継続実施。

さらに、令和6年度は年金制度改正と関連した意見聴取を行う。

- 学生の問題意識や関心がある論点を事前に把握してテーマを設定（拡充）
- 年金制度改正と関連したテーマや内容を含む講義資料を追加し、学生との意見交換を実施（拡充）
- 年金制度に対する提案や要望などを募集するアンケート項目を追加（新規）

※大学側と事前調整の上、年金部会委員や企業年金・個人年金部会委員の年金対話集会への参加も検討する。

2. 新たな年金教育教材を活用した中高生向け年金対話集会の実施

⇒より幅広い年齢層から意見を聴くため、中高生向けの年金対話集会を実施。

- 中高生が興味を持ち、楽しく学ぶことができる新たな年金教育教材を活用（新規）
- 講義の後に意見交換を実施し、中高生の年金制度に対する意見を聴取（新規）

新たな年金教育教材を活用した中高生向け年金対話集会について①

令和6年度においては、令和5年度に新たに開発した年金教育教材を活用した中高生向けの年金対話集会を実施することにより、中高生との年金制度に関する意見交換を実施する。

概要

【背景】

内閣府が令和5年11月に実施した「生活設計と年金に関する世論調査」によれば、「公的年金制度の内容について、多くの方に理解してもらうためには、どのようなことが必要か」という質問に対し、18歳から29歳までの若者の60.9%の方が「中学・高校における年金に関する授業の充実」と回答した。

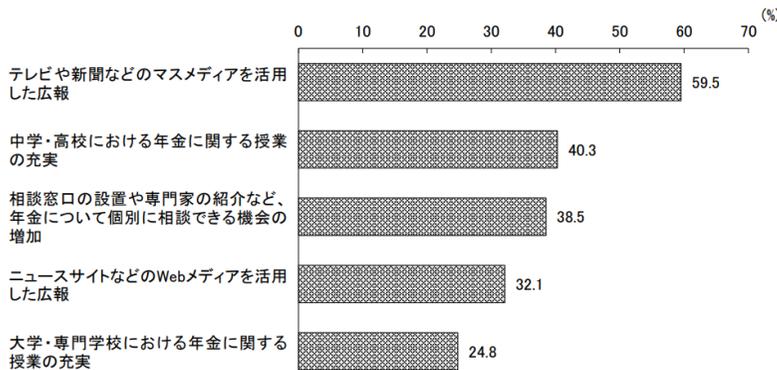
【実施案】

令和5年度に新たに開発した年金教育教材を活用して中高生向けの年金対話集会を実施することにより、中高生との年金制度に関する意見交換を実施する。

なお、年金制度に関する意見交換を実施するためには、年金制度に関する事前学習を行うなど事前の準備が必要となることから、中高生向け年金対話集会の開催に向けた調整を早急に進める。

公的年金制度の理解を広げるための方策

(複数回答)



「生活設計と年金に関する世論調査」内閣府 令和5年11月

新たな年金教育教材について(ワークシートのイメージ)

働き方・暮らし方の変化に伴う将来の受取り年金額をシミュレーションしながら、年金制度に関する基礎的な内容をわかりやすく解説することを目的としたワークシートを中学校や高校に提供予定。

(1) 公的年金ってどんな制度?

1 年金の「年」って何?

ワーク 1-1 年金クイズ!

ビデオを見て、クイズに答えよう!

問題! 年金の「年」って何?

答え

A 年齢 B 年配 C 1年

年金と聞くと高齢者が受け取るもの、というイメージがあるかもしれませんが、それだけではありません。「公的年金」には高齢者が対象の「老齢年金」、障がいがある方への「障害年金」、経済的な支えを失った家族への「遺族年金」があります。

2 日本の年金制度の仕組みって?

日本の公的年金制度は、①20歳以上60歳未満の全ての人々が共通して加入する国民年金と、②会社員や公務員等が加入する厚生年金があります。年金には私的年金という仕組みもあります。私的年金とは、企業や個人が任意で加入して積み立てをする年金です。公的年金に加え、私的年金にも加入することで年金額を上乗せすることができます。



3 公的年金は誰がいつ加入するの?



- 旅行・国や役所などに税金を支払うこと。
- 被保険者…保険の対象。
- サービスや補償を受け取る人。

日本に住んでいる20歳以上60歳未満の人は、国民年金に加入することが義務付けられています。国民年金には3つの種別があり、それぞれ加入手続きや保険料の納付方法が異なります。

「第1号被保険者」はフリーランスで働く人や学生などを指します。毎月「定額」の保険料を自分で納める必要があります。「第2号被保険者」は会社員や公務員などを指します。国民年金に加え、厚生年金保険にも加入します。保険料は毎月「定率」なので、納付額は人により異なります。事業主(勤務先)と被保険者が半分ずつ負担して納付します。

2 将来受け取れる年金額ってどれくらい?

将来どのくらいの年金がもらえるのかわかりたい! 予想しながら動画を見よう!

ワーク 2-2 公的年金シミュレーターを使ってみよう!

公的年金シミュレーターを使って、将来もらえる年金額をイメージしよう。

1. 生年月日を入力する。

2. 働き方・暮らし方を選択し、加入期間を入力する。(付加給付の有無の欄が出てきた場合は、今回は「無」を選択する。) 全部できたら「試算する」ボタンを押す。

3. 年金額の試算結果が表示される。

公的年金シミュレーター <https://nenkin-shisian.mhlw.go.jp/>

Aさんのパターン

20歳からフリーランスとして働き始め、59歳まで国民年金に加入した。

1 支給開始年齢を65歳にしたとき、1年にくらずつ受給できる?

2 Aさんは支給開始年齢を70歳に遅らせた。このとき、70-74歳の5年間で受け取れる金額はいくら?

Bさんのパターン

20歳から働き始め、64歳まで厚生年金保険に加入した。(年収450万円(令和4年分 民間給与実態統計調査の平均給与))

1 支給開始年齢を65歳にしたとき、1年にくらずつ受給できる?

2 年収450万円で69歳まで働いて70歳から受給を始めたとき、1年あたりの受給額はいくらか?

3 20歳-40歳の年収は450万円だったが、41-64歳では年収600万円に上がった。このとき、65歳から受給を始めたとき、1年あたりの受給額は1に比べていくらか高くなる?

新たな年金教育教材を活用した中高生向け年金対話集会について②

新たな年金教育教材について(年金教育特設サイトのイメージ)

全国の中学校や高校の教育現場で活用できるようにするため、厚生労働省ホームページの特設サイトとして、年金教育特設サイトを新たに公開する予定。ワークシートをはじめとする各種年金教育教材のダウンロードや各教材の内容と関連したクイズノックによる解説動画など、ICT教育とも関連付けて活用できるようにする。

